

今と昔のキリスト教の普及率の違い

～何百年にも及ぶキリシタンの苦難～

【テーマ設定の背景】

このテーマを設定するに至った経緯を説明します。崎津集落が世界文化遺産に認定された時、私達は初めて崎津集落の存在を知りました。その時に、私達が如何に故郷天草のことを知らないかが思い知らされました。だからこそ、過去の天草に何が起きていたのか、私達でも知らない天草の魅力は何かを知るいい機会だと思い、天草の歴史について調べることに決めました。一概に「歴史」といっても当てはまるものが多いと思います。そこで、崎津集落に縁のある、キリスト教を調べることにしました。その中でも、「今と昔のキリスト教の普及率の違い」が知りたいと考え、このテーマ設定に至りました。

【仮説】

現在は、天草・島原一揆により規模は縮小している。

【検証方法】

- ★過去と現在のキリスト教信者数をなるべく具体的な数字で調べる。
- ★普及率の違いだけでは、天草の歴史について知るには不十分なため、キリスト教に関するものも詳しく調べる。
- ★今の天草においてキリスト教がどういう状況にあるのか、その現状を調べる。

【結果】

* 天草・島原一揆の概要

島原の乱などとも言う。寛永14年(1637)10月下旬から翌年の2月下旬にかけて、島原半島南部及び天草諸島のキリシタン農民が主体となり、キリシタン信仰の復活、租税の重圧からの開放のため、幕藩権力に抗戦した一揆。

* 最重要人物「天草四郎」の人物像

本名「益田四郎時貞」と言い、家族ともにキリシタン信徒だった。天草四郎は、盲目の少女に触れたら目が見えるようになった・天草と島原の間にある湯島まで海上を歩いて渡ったなどの様々な奇跡を起こしてきたと言われる。その評判は天草・島原一帯に広まり、遂には、一揆の総大将に押し立てられた。

* 天草・島原一揆に関連する場所

天草四郎乗船之地

{ 苓北町坂瀬川 }



供養碑



* 天草のキリスト教の歴史

豊臣秀吉が宣教師を追放したあと、国内の宣教師が当地に入り込むことにより、キリシタンの人口が増大した。それに伴い、バテレン追放令前が2万人だったのに対し、7万人にまで達していた。17世紀から19世紀の2世紀以上にわたる禁教令の下で密かに信仰を続けていた人々がいた。

* 現在の状況

文化庁の宗教統計調査によると、日本のキリスト教信者の総数は190万9757人である。1万人あたりの信者数で見ると、長崎県が2位で474.6人、熊本県が6位で99.4人と天草も島原も上位に入っている。熊本には、確実にキリスト教が根づいている！！！！

【結論】

幕府の一揆軍への処断は厳しく、島原半島南目と天草諸島のキリスト教徒は、一揆への参加の強制を逃れ潜伏した者や僻地にいた者は一揆軍に取り込まれなかったため、生き残った僅かな旧領民以外ほぼ根絶された。残された信者たちは、潜伏し、隠れキリシタンとなった。端的に言うと、天草・島原一揆の影響により、規模は大幅に縮小した。しかし、現在では大分信者数が増加した。

【展望】

私達は今回の調べ学習を通して、幕府の禁教令に耐え、現在に至るまでキリスト教を信じ切ったキリスト教徒の信仰心の強さと、最後まで信じ切ることの大切さを学ぶことができました。禁教令に忍耐強く耐え続けた結果、世界文化遺産に登録されたり、信者の数が増えたりしたように、どれだけ不可能だと思っても一度決めたなら、最後まで諦めず挑戦し続けたいと思います。

【参考文献・Webサイト等】

<https://amakusa-kankou.com/>

<https://kumamoto.guide/>

<http://www.kumamotokokufu-h.ed.jp/>

<https://amakusa-kankou.com/>

<https://kumamoto.guide/>

<https://study-z.net/>

<https://japanknowledge.com/>

<https://japanknowledge.com/>

<https://www.mapple.net/>

<https://kotobank.jp/>